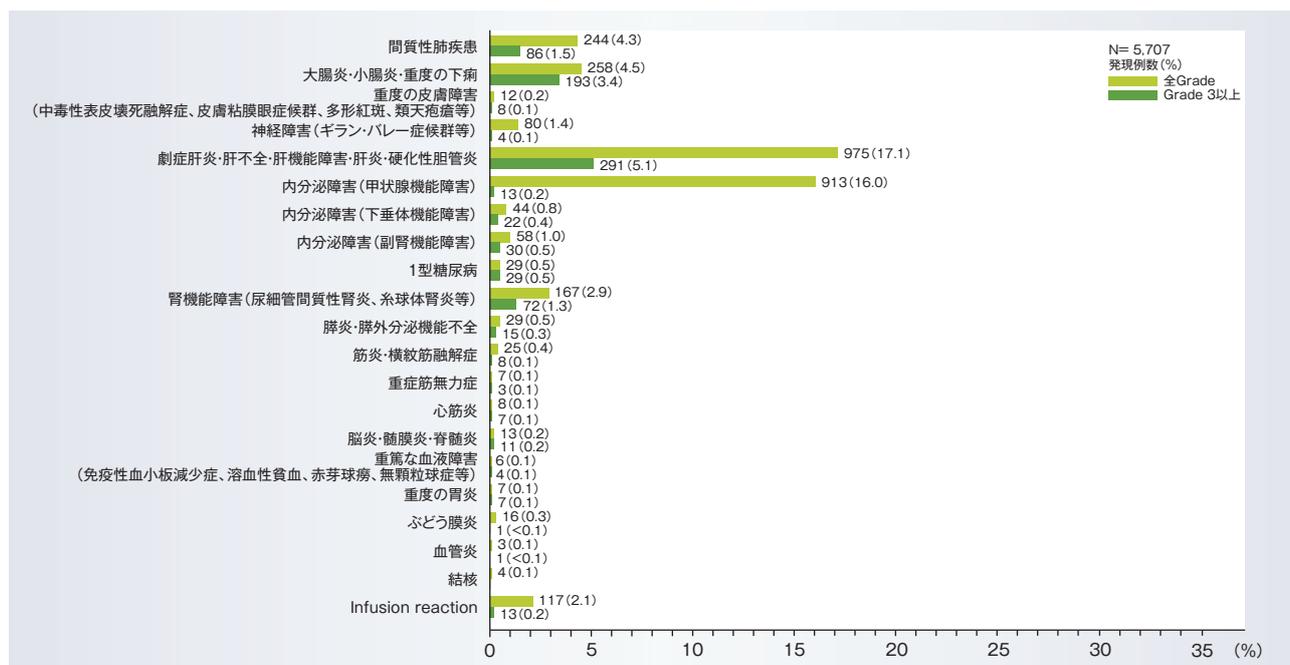


# 注意を要する有害事象とその対策

## 注意を要する有害事象の発現状況

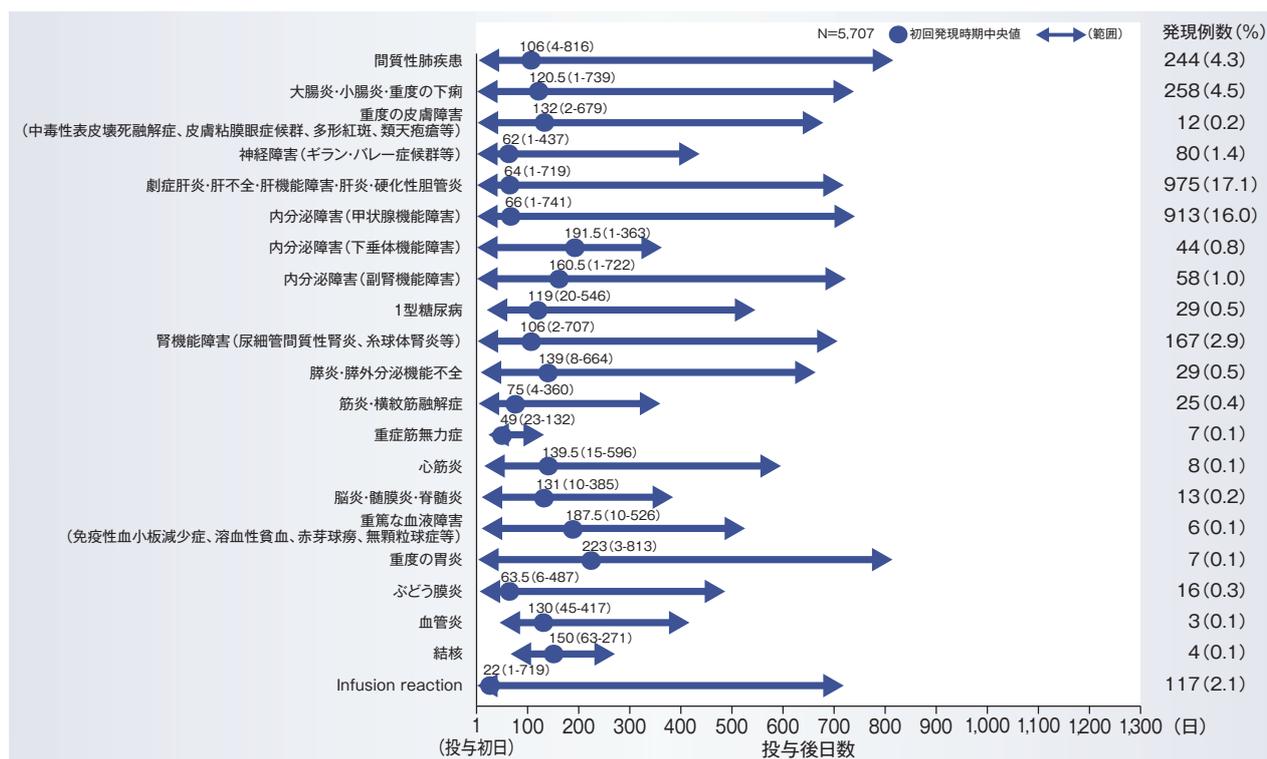
本剤のT細胞活性化作用により、過度の免疫反応に起因すると考えられる様々な疾患や病態があらわれることがある。観察を十分に行い、異常が認められた場合には、過度の免疫反応による副作用の発現を考慮し、適切な鑑別診断を行うこと。過度の免疫反応による副作用が疑われる場合には、副腎皮質ホルモン剤の投与等を考慮すること。また、本剤投与終了後に重篤な副作用があらわれることがあるので、本剤投与終了後も観察を十分に行うこと。〔警告〕〔用法及び用量に関連する注意〕〔特定の背景を有する患者に関する注意〕及び〔副作用〕の項参照

### 発現例数(発現割合)\* 単独投与時



\*データは、本剤2mg/kgもしくは200mgを3週間間隔又は10mg/kgを2週間もしくは3週間間隔で単独投与した臨床試験で発現した有害事象の併合解析に基づく(本資料掲載の臨床試験はP.5参照)。

### 発現時期の目安\* 単独投与時



\*データは、本剤2mg/kgもしくは200mgを3週間間隔又は10mg/kgを2週間もしくは3週間間隔で単独投与した臨床試験で発現した有害事象の併合解析に基づく(本資料掲載の臨床試験はP.5参照)。

適正使用に関する  
お願い

本資料にデータを  
掲載している臨床試験

投与に際しての  
注意事項

注意を要する  
有害事象とその対策

臨床試験情報

Q & A

付録